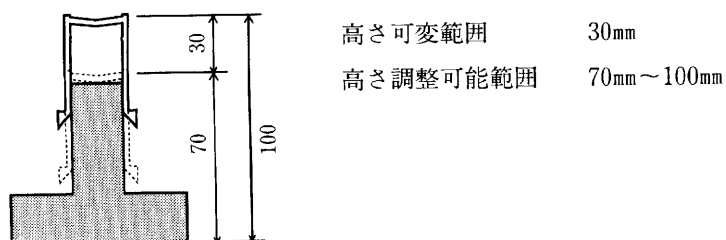


- (2) 「高さ調節可能範囲」と「高さ可変範囲」の概念を図3に示す。

図3 「高さ調節可能範囲」と「高さ可変範囲」



- (3) 高さ可変範囲の計算は、表3による。

表3 高さ可変範囲の計算式

種 類	高さ可変範囲の計算式
本体とベースが一体 となったもの	$a = b - c$
本体とベースが別体 となったもの	$a = (b - c) + (d - e)$

- a : 高さ可変範囲
b : キャップの最大のみ込み長さ
c : 15mm (最低限度必要なキャップのかぶり長さ)
d : ベースの最大のみ込み長さ
e : 10mm (最低限度必要なベースのかぶり長さ)

- (4) ベース幅の規定を行ったのは、目地材両側の保護コンクリート相互の確実な縁切りと、施工時の安定化を目的とした。

4. 品 質 製品の寸法は、7.によって試験を行ない、表4に適合するものとする。

表4 成形伸縮目地材の品質

試験項目		温度条件	分類による規格値		試験項目番号
			1 類	2 類	
圧縮荷重試験	0～30%圧縮での最大荷重 N/cm {kgf/cm}	20℃	160 {16.3} 以下	240 {24.5} 以下	7.4
	0～30%圧縮での目視検査		キャップ表面に「割れ」が生じ無いこと		
	0～30%圧縮での最大荷重 N/cm {kgf/cm}	60℃	160 {16.3} 以下	240 {24.5} 以下	
	0～30%圧縮での目視検査		キャップ表面に「割れ」が生じ無いこと		
伸び性能試験	30%引き伸ばし状態 における目視検査	20℃	伸び率30%で離脱を生じないこと		7.5
	30%引き伸ばし状態 における目視検査	-20℃	伸び率30%で離脱を生じないこと		
耐摩耗性試験	mg	20℃	1.000mg以下		7.6
加熱収縮率試験	加熱収縮率 %	20℃	縮み0.5%以内		7.7
	「反り」「歪」の目視検査		いずれの試験片にも著しい変形がないこと		
衝撃抵抗性試験		20℃	PD-3 合格		7.8
耐候性試験		20℃	いずれも試験片にもひび割れがないこと		7.9

5. 寸法 製品の寸法は、7.2.によって測定し、表5に適合するものとする。表5に表示した寸法に対する許容差は、表6のとおりとする。

表5 製品の寸法

形状区分	キャップ幅 mm	キャップ長さ m	本体幅*1 mm	用途区分	高さ可変範囲 mm	ベース幅*1 mm
1 類	20.0	1.5以上	キャップ幅 の80%以上	高さ可変型	20以上	本体幅+40以上
	25.0					
2 類	30.0			高さ固定型	20未満	—
	40.0					

*1 本体幅及びベース幅の計算は規格値を基準に行なうものとする。